

九州大学における研究データガバナンス構築に向けて

— 九大のRDMとNIIデータガバナンス機能への期待 —

附属図書館 副館長
研究データ管理支援部門 部門長

富浦 洋一



九州大学

◆設置目的

自然科学から人文社会科学に至る広範な学問分野を結集して、倫理・法制的な面も考慮した社会的課題の解決に貢献し、社会・経済システムの変革を促すための基盤として、データ駆動イノベーション推進本部を設置する

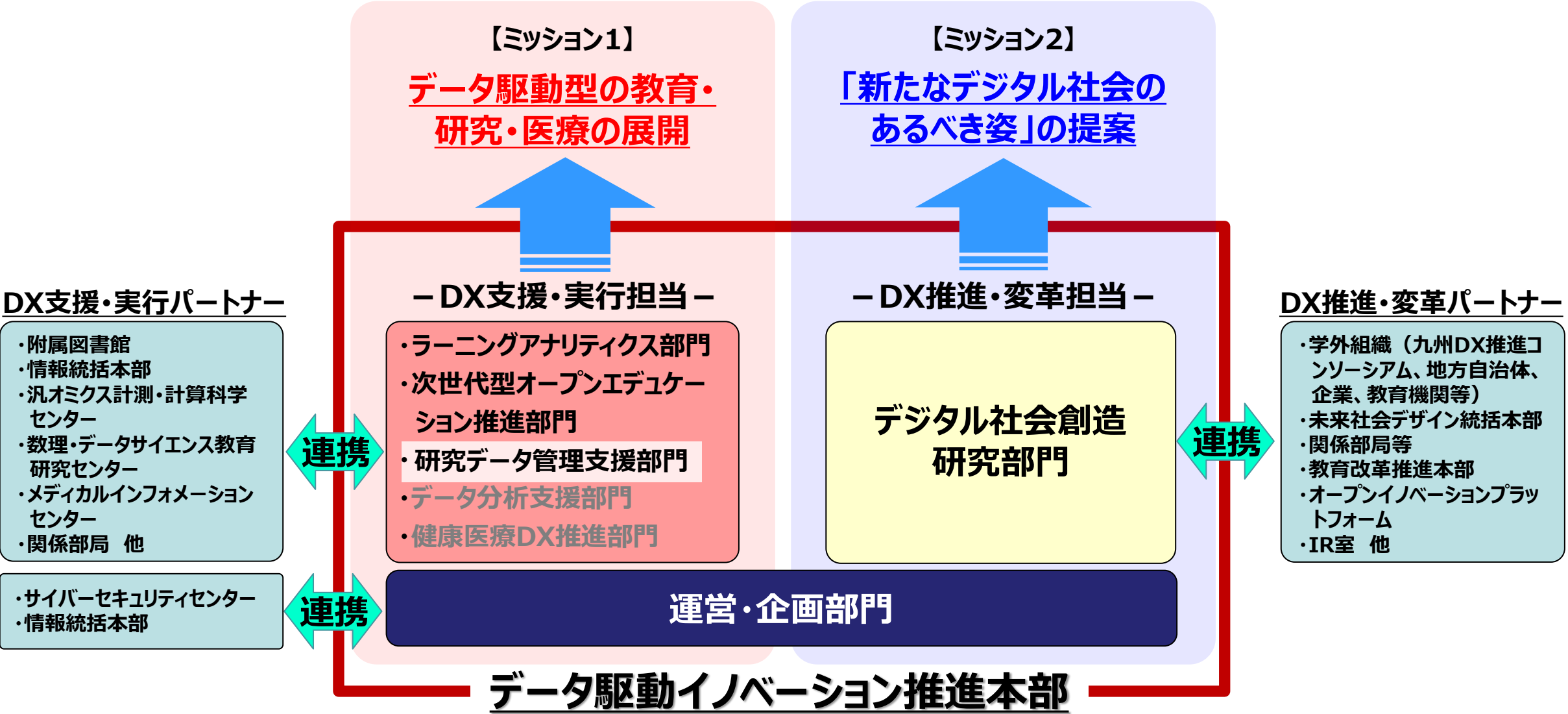
◆ミッション

1 データ駆動型の教育・研究・医療の展開

DX時代の新たな教育・研究・医療スタイルとして、「多種多様なデータを広く収集し、そのデータの分析等によって新たな教育・研究・医療等を進め、更に、そこから得られた新たなデータによって次のステップの教育・研究・医療を進めるという正の循環により教育・研究・医療の質を飛躍的に向上させる」データ駆動型のアプローチを全学的に推進する

2 「新たなデジタル社会のあるべき姿」の提案

DX推進の視点から、「新たなデジタル社会のあるべき姿」を提案し、そこに至るプロセスをバックキャスト的に考察して、短期、中期、長期的に具体的に何をしなければならないかを社会に発信する



ー データ駆動を通じたイノベーション創出のイメージ ー

〔地域起点の「総合知」を生かした新たな社会システムの実現によって社会の変革に貢献〕

DX推進人材の育成 新たなデジタル社会のあるべき姿の実現

社会変革や社会実装を見据えたDXプロジェクトの推進

社会ニーズ

マインドセット

教育DXに資する
具体的な取組

研究DXに資する
具体的な取組

健康医療DXに資する
具体的な取組

総合知による新たな価値の創出

サポート

ラーニングアナリティクスと
オープンエデュケーション

研究データ利活用と
オープンサイエンス

データに基づく健康・医療
サービスの高度化

DXの領域

教育DX

研究DX

健康医療DX

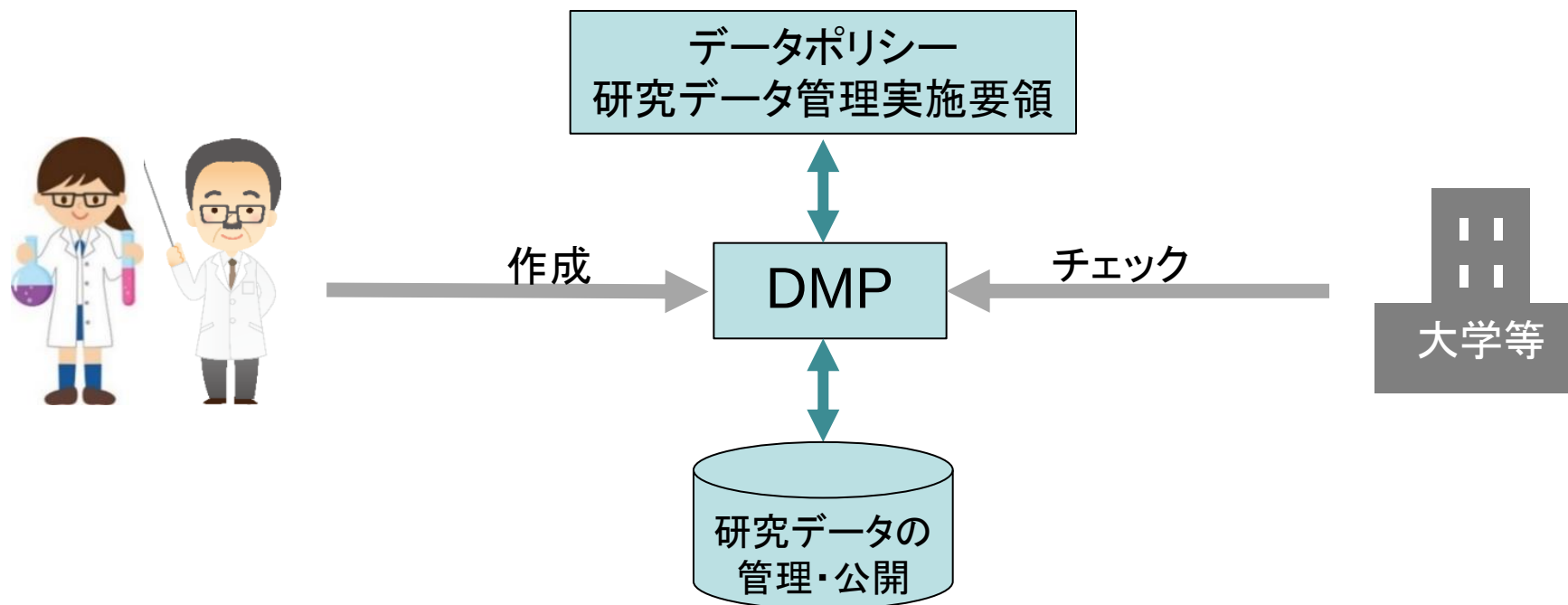
データ駆動型の教育・研究・医療の展開

データマネジメントを統制サポートするデータガバナンスの構築

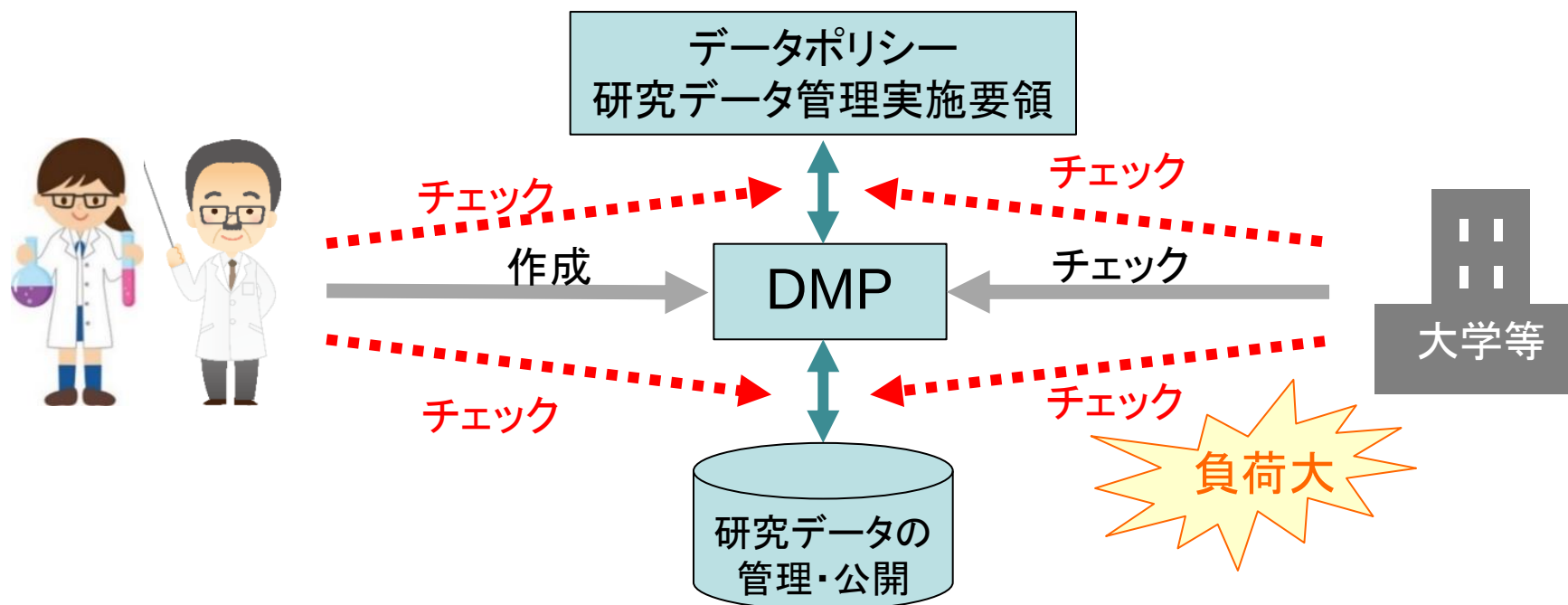
既存の学内情報サービス基盤の強化

DX推進人材の確保・育成

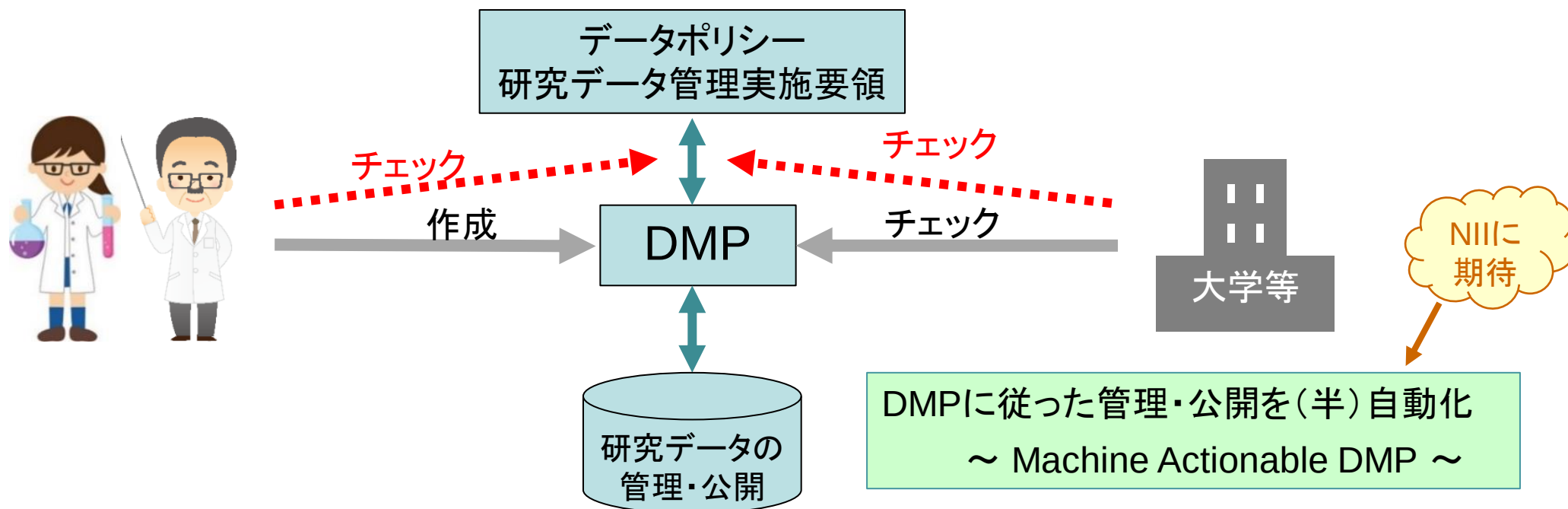
- 研究データの管理・公開等の取り扱いに関する組織の考え方を記述したものがデータポリシー。
そして、研究データの具体的な取り扱い方法を記述したものが研究データ管理実施要領。
- 研究プロジェクトXの**DMP**は、そのプロジェクトにおける研究データの生成・収集および研究データの管理・公開等の取り扱いの計画を研究者自身が記述したもの。したがって、DMPがデータポリシーや研究データ管理実施要領に準拠しており、研究者がDMPに記述したとおりのデータの取り扱いを行うならば、データガバナンスが保証される。



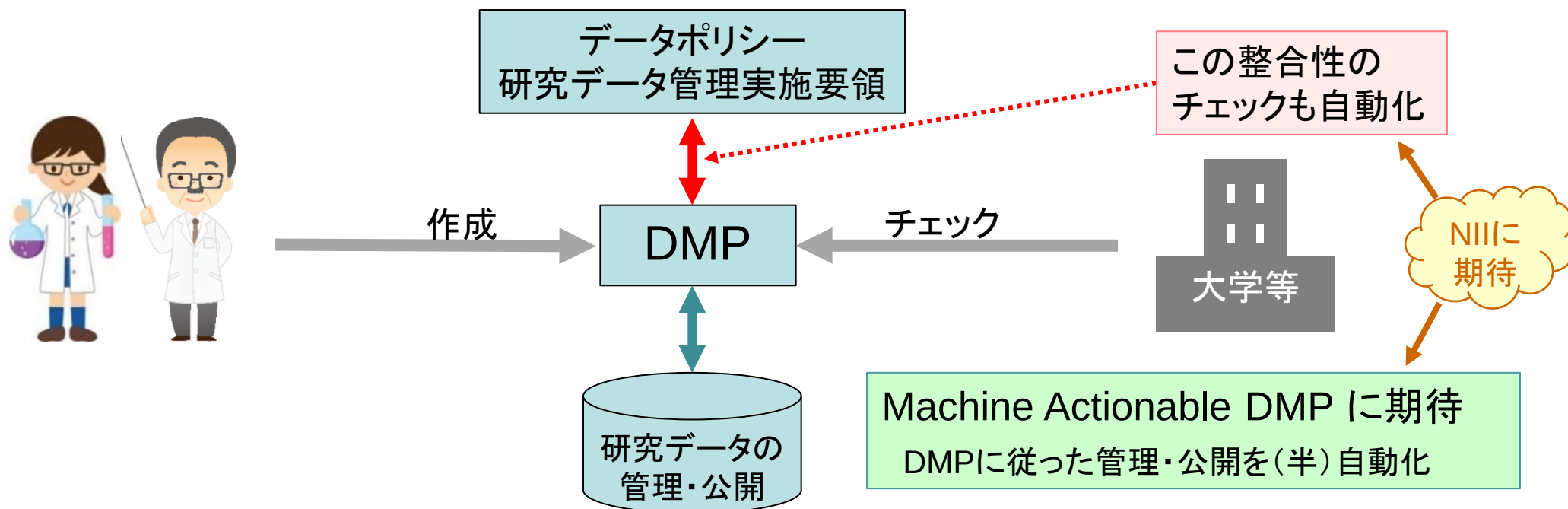
- 研究データの管理・公開等の取り扱いに関する組織の考え方を記述したものがデータポリシー。
そして、研究データの具体的な取り扱い方法を記述したものが研究データ管理実施要領。
- 研究プロジェクトXの**DMP**は、そのプロジェクトにおける研究データの生成・収集および研究データの管理・公開等の取り扱いの計画を研究者自身が記述したもの。したがって、DMPがデータポリシーや研究データ管理実施要領に準拠しており、研究者がDMPに記述したとおりのデータの取り扱いを行うならば、データガバナンスが保証される。



- 研究データの管理・公開等の取り扱いに関する組織の考え方を記述したものがデータポリシー。
そして、研究データの具体的な取り扱い方法を記述したものが研究データ管理実施要領。
- 研究プロジェクトXの**DMP**は、そのプロジェクトにおける研究データの生成・収集および研究データの管理・公開等の取り扱いの計画を研究者自身が記述したもの。したがって、DMPがデータポリシーや研究データ管理実施要領に準拠しており、研究者がDMPに記述したとおりのデータの取り扱いを行うならば、データガバナンスが保証される。



- 研究データの管理・公開等の取り扱いに関する組織の考え方を記述したものがデータポリシー。
そして、研究データの具体的な取り扱い方法を記述したものが研究データ管理実施要領。
- 研究プロジェクトXの**DMP**は、そのプロジェクトにおける研究データの生成・収集および研究データの管理・公開等の取り扱いの計画を研究者自身が記述したもの。したがって、DMPがデータポリシーや研究データ管理実施要領に準拠しており、研究者がDMPに記述したとおりのデータの取り扱いを行うならば、データガバナンスが保証される。



研究過程での計画変更はつきもの。研究の進展（変更）に合わせて，DMPを加筆・修正していく必要があり，これを確実に行う（or 支援する）ための仕組みが考えられないか？

➡ 電子実験ノートとDMPの連携

- 現在では，データの加工や分析は計算機上．紙の実験ノートでは効率が悪い上に記載ミスに繋がる．
- 一方，研究分野に特化した商用の電子実験ノートは高機能であるが，マスターするのに時間がかかり，大学研究室には向かない．
- 必要最小限の機能に限定し，多くの分野で利用できる電子実験ノートの開発に期待．
- データファイル間の関係（入力データ，処理プログラム，出力データ）を計算機上での操作から自動記録することが RDM にとって重要．

➡ データを頂点とする有向グラフ

➡ DMPに記録すべきデータの候補の抽出（DMPの加筆・修正の支援）

- 2022年4月 研究データ管理支援部門設置.
- 2022年度にデータポリシー（2019年3月素案作成）を策定予定,
その後, 部局の研究データ管理実施要領を策定.
- 研究者が, データポリシーや研究データ管理実施要領に準拠してDMPを作成し, さらに,
DMPに従ってデータの管理・公開等を行い, 組織も研究者が作成したDMPをチェック.
 ➡ データガバナンス
- 研究者, および組織の負担軽減のため,
 - Machine Actionable DMP の開発
 - データポリシーや研究データ管理実施要領とDMPとの整合性のチェックの自動化
 - 多くの分野で利用できる電子実験ノートの開発とDMPとの連携システムの開発を NII に期待.